

<東京六戸会 講話会のご報告>

■東京六戸会会長 高坂忠

平成 22 年 11 月 10 日（水）に修学旅行で東京に来られた七百中学校 2 年生 44 名の生徒さんと“七百中先輩講話会”が開かれました。当日は私と田中章雄副会長、下田達也理事の 3 人が出席し、都内のホテルにて『郷土の中学生に望むこと』と題し、下田理事（七百中、昭 62 年卒）に語っていただきました。この講話会は七百中学校から東京六戸会にご依頼があり、実現いたしました。東京六戸会では予めから、ふるさと六戸町と交流をもつ活動が議論されており、今回このような形で実現することになり、大変嬉しく思っております。当日、教頭先生、学年主任の伊藤先生はじめ、関係者各位から、温かいお出迎えをいただき、この場をお借りして感謝申し上げます。これを機に、地元との交流を様々な形で広げていきたいと考えております。





■講話会の感想

・副会長 田中章雄

生徒さん達の合唱・応援エール・肩を組んで歌った校歌、それと私の同級生の息子さんがいらした事（笑）、どれも素晴らしい思い出になり、大変うれしく思いました。七百中の生徒諸君、ありがとう！東京六戸会にとっても、大変意義のある講話会だったと思いますし、今後も続いていくことを願っています。

・理事 下田達也

私たちが会場に入ると、まず生徒さんたちから日々の授業風景や部活風景などを、パソコンとスクリーンを使って分かりやすく解説していただきました。自分たちで写真を撮影し、自分たちでパソコンを使ってスライドを作ったと聞き、とても感動しました。

僭越ではありますが、私からは「いろんなことに興味を持つことは大事。好きなことや夢をもってほしい」、「自分の個性を大切にしてほしい」ということを中心にお話をさせていただきました。けっこう大人しい生徒さんが多いのかと思ったのですが、私からの質問に元気にこたえてくれて、とても盛り上がった講話会でした。



そして数日後、生徒さんたちから手書きの感想文をいただきました。当日私の話しを聞いて感じたことや、当日聞けなかった質問など、丁寧に書かれたものばかりでした。一言一句、じっくり読ませていただき、逆に生徒たちから教わったことが多かった機会だったように思います。「教えることは、教わること」、改めて勉強させていただきました。本当にありがとうございます。